

共創会議における取組内容について

2025年8月6日

関西電力株式会社

1. 地元企業の活用
2. 嶺南産水素の大阪・関西万博等での活用
3. 嶺南地域における地域交通の充実
4. EV充電器の設置
5. ビジネスマッチングの取組み

地元企業の活用

- 昨年12月に追加した、当社工事仕様書への「地元企業活用」を求める記載について、様々な機会を通じて、元請企業に周知徹底。
- 昨年6月に導入した「入札加点制度※」は、これまで、発電所の敷地造成工事など4件の工事で実施。
 ※入札加点制度：元請企業の競争発注審査時の評価項目に「地元企業活用」を追加
- 地元企業活用に向けた取組みを継続的に実施。**

地元企業活用に向けた取組み（具体例）

【「紙文書の電子化」における地元企業の活用・育成】

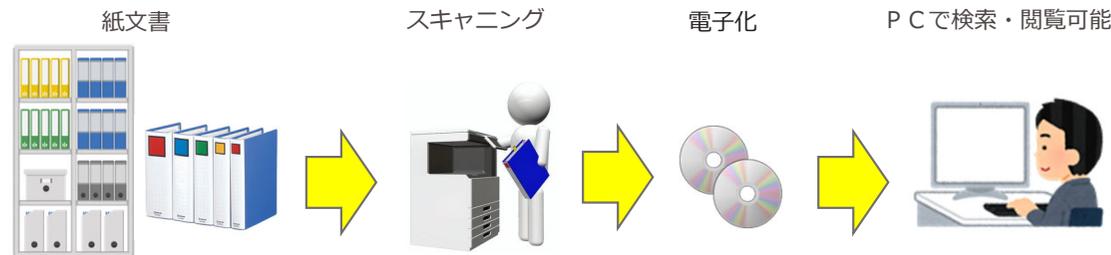
- 原子力部門では、このたび、原子力関係の機密性が高い文書について、生産性の向上や業務効率化を図るため、膨大な紙文書の電子化を決定。
- その際、以下のとおり工夫して、地元企業を活用。

通常	今回
<ul style="list-style-type: none"> ・機密性を担保すべく、セキュリティ体制が構築されノウハウを有する大手企業へ発注 	<ul style="list-style-type: none"> ・競争発注前に地元企業に対して個別に作業内容や必要なノウハウを説明のうえ、参画を打診。共にセキュリティ体制の構築等を実施することで、極力、地元企業へ発注 ・発注後も品質レベルの維持・向上を目的に、各社の実務者会議を実施する等、継続的なフォローを実施中

参考

<紙文書電子化のイメージ>

- ・これまで紙で保管してきた文書をスキャニングし電子化することで、PCで検索・閲覧できるようにする。
- ・重要文書であるため、スキャニングの品質はもちろん、作業中・運搬中のセキュリティ管理も極めて重要。

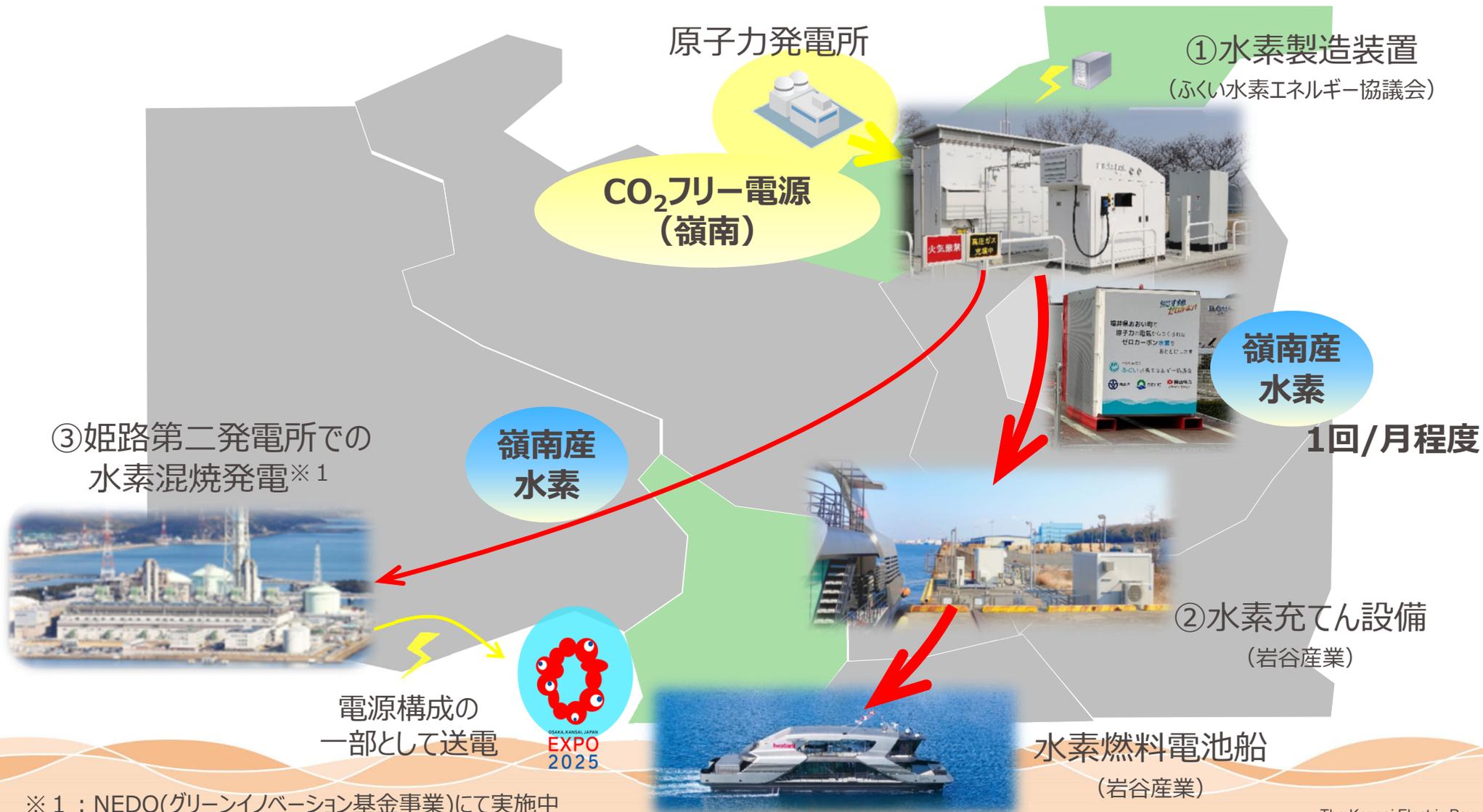


※ 2年程度の物量を想定

1. 地元企業の活用
2. 嶺南産水素の大阪・関西万博等での活用
3. 嶺南地域における地域交通の充実
4. EV充電器の設置
5. ビジネスマッチングの取組み

嶺南産水素の大阪・関西万博等での活用

- ① おおい町「うみんぴあエリア」に、水素製造装置を設置 (3/25竣工:ふくい水素エネルギー協議会)
- ② 水素燃料電池船への燃料供給設備へ嶺南産水素を運搬 (4/18、5/14、6/17、7/15)
- ③ 姫路第二発電所の水素発電実証向けに、嶺南産水素を運搬 (5/29、7/14)



※ 1 : NEDO(グリーンイノベーション基金事業)にて実施中

嶺南産水素の大阪・関西万博等での活用

➤ 嶺南産水素の利活用について、各種メディア等を通じて幅広くPR

概要	時期	詳細
当社万博特設ホームページ	'24/9~	水素船および姫路第二火力の水素混焼実証に嶺南産水素の活用を掲載。状況を適宜更新
脱炭素EXPOでのPR	'24/10	脱炭素EXPOの当社ブースにて水素船への嶺南産水素活用を記載
読売新聞特集記事への掲載	'24/11	読売新聞の水素利活用に関する特集記事にて水素船への嶺南産水素活用を記事化
専門誌エネルギーフォーラムへの掲載	'24/2	エネルギーフォーラムの水素利活用に関する特集記事において、嶺南産水素の利活用について記事化
水素船内PR動画	'25/3~	水素船内で嶺南産水素活用などをPRした動画を放送
水素カードラッピング	'25/3~	水素カードルに 嶺南産ゼロカーボン水素であることをアピールするラッピングを実施。（右写真） 水素製造装置竣工式の外、水素船への初回運搬、水素船披露式への設置等によりアピール
水素製造装置竣工式 プレス公開	'25/3	水素製造装置竣工式典において、プレスへ装置・カードル等を公開。 各種報道機関にて報道
当社SNS投稿（竣工式）	'25/3	水素製造装置竣工に合わせて、SNS（X、Facebook）に投稿
当社広報誌への掲載	'25/3	えちぜん若狭のふれあい3月号、3/31公開の広報誌（You's）万博特集にて嶺南産水素を水素船等に活用することを掲載
水素船への初運搬、 プレス公開	'25/4	バンカリング設備への嶺南産水素初運搬をプレス公開。 各種報道機関にて報道
当社SNS投稿（初運搬）	'25/4	4/18の搬出・4/21の水素船への充てんについてSNS（X、Facebook）に投稿
当社SNS投稿 （万博特設アカウント）	'25/5	関電関係者の嶺南産水素に関する取組みをSNS（X）に投稿



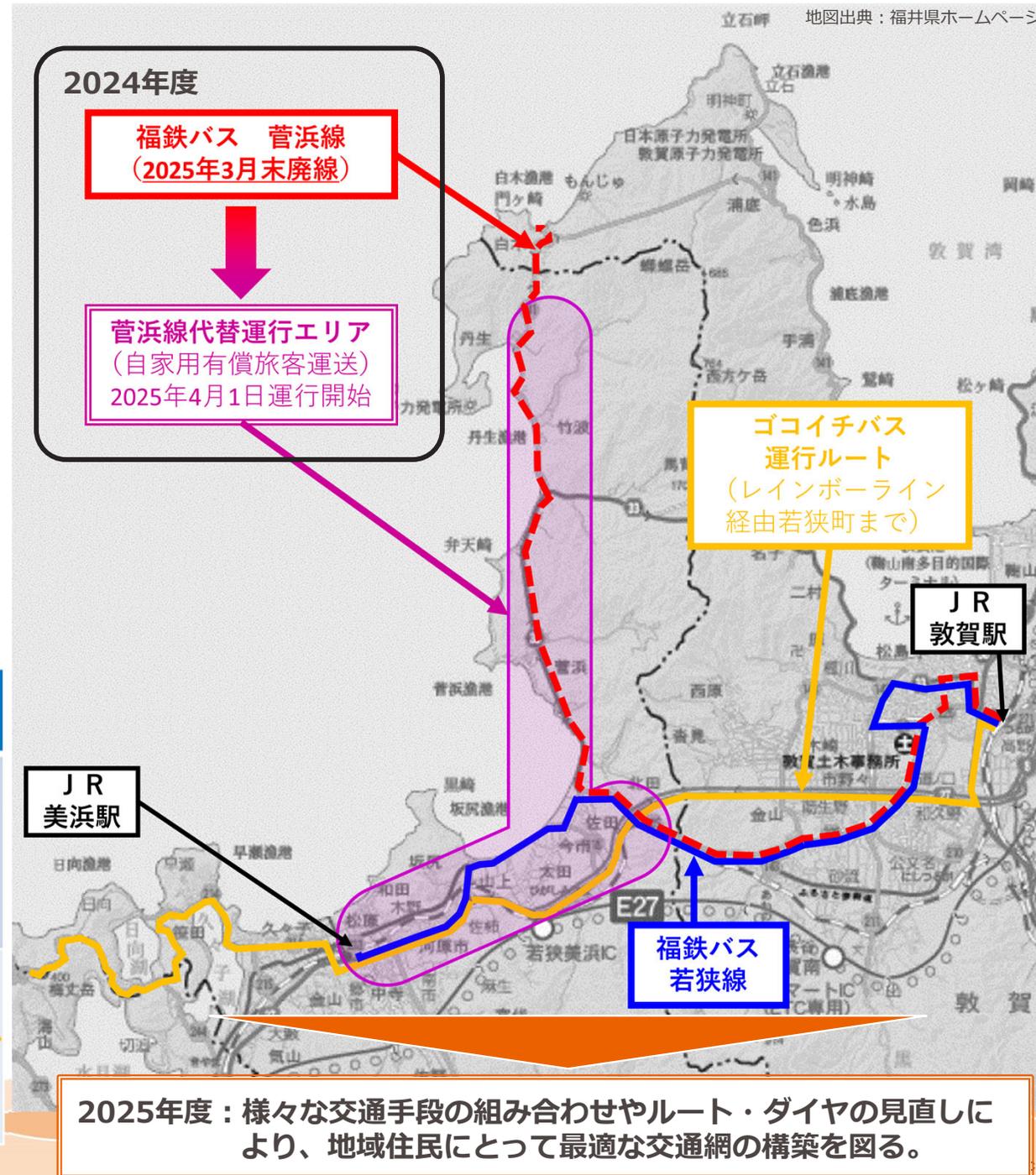
1. 地元企業の活用
2. 嶺南産水素の大阪・関西万博等での活用
3. 嶺南地域における地域交通の充実
4. EV充電器の設置
5. ビジネスマッチングの取組み

嶺南地域における地域交通の充実

- 嶺南地域における地域交通の充実を推進。
- まずは**美浜町**で、町と共同でコンサルティング会社に委託し**検討を実施**。
 - ・2024年度は、**廃線となる路線バス「菅浜線」の代替交通を構築**（「自家用有償旅客運送」開始）
 - ・2025年度は、**最適な交通網の構築を図るべく、引き続き調査を実施中**。
- 上記の調査結果（ノウハウ）を、順次、嶺南地域全体に展開。

【想定スケジュール】

地域	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
美浜町	基礎調査	本格コンサルティング コンサル結果反映	試運用	本格実施
嶺南全体				水平展開を検討

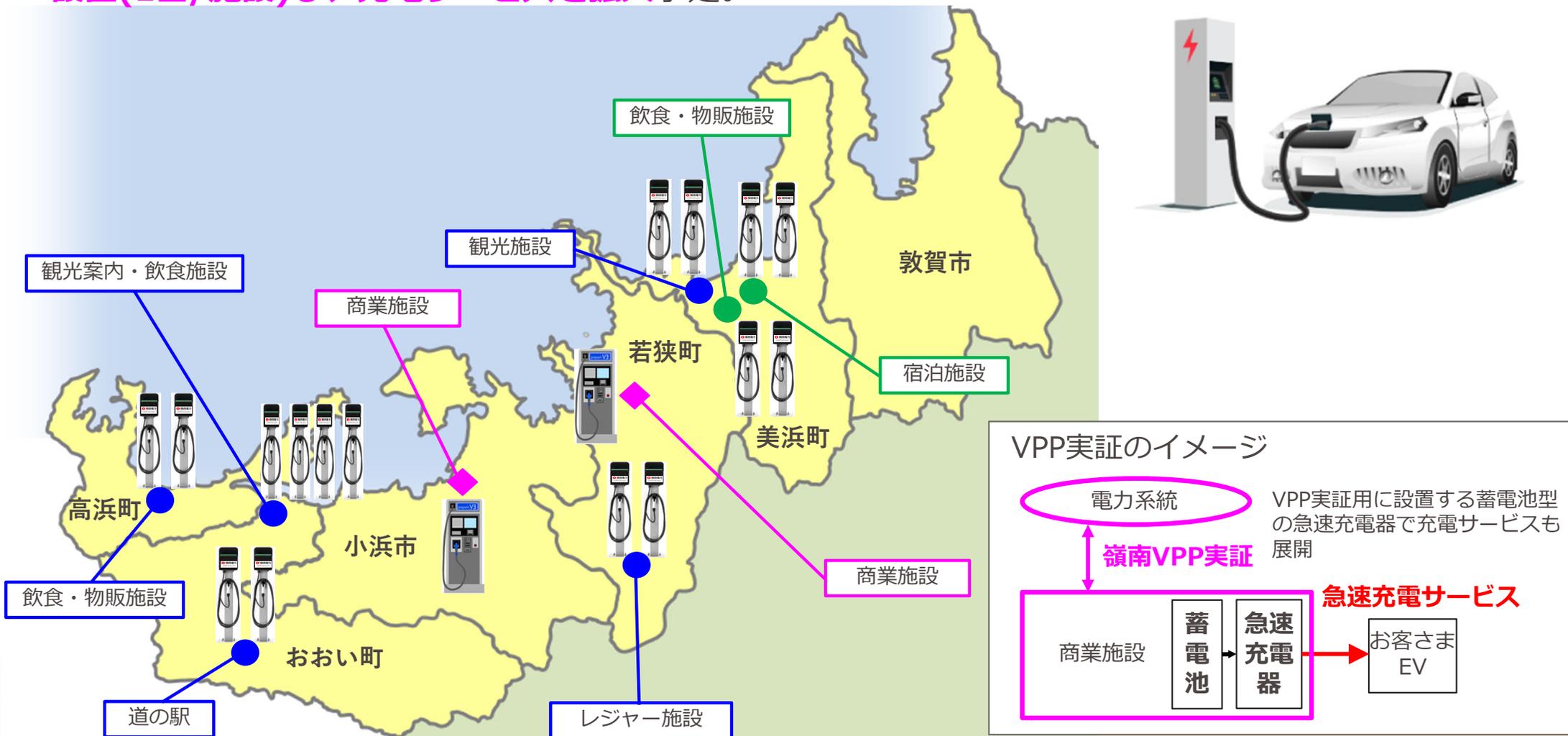


2025年度：様々な交通手段の組み合わせやルート・ダイヤの見直しにより、地域住民にとって最適な交通網の構築を図る。

1. 地元企業の活用
2. 嶺南産水素の大阪・関西万博等での活用
3. 嶺南地域における地域交通の充実
4. EV充電器の設置
5. ビジネスマッチングの取組み

EV充電器の設置

- 嶺南地域にEV充電器を設置し、充電サービスを展開。
- 嶺南地域向けの新たなEV普通充電サービスを商業施設や観光施設等にご提案。2024年度に設置の合意を得た**5施設**について、**2025年度中に普通充電器12基を設置予定**。
- 普通充電器の更なる設置施設拡大に向け、提案活動を継続中。**新たに2施設4基の設置について合意**を得た（7月末現在）。
- 加えて、2026年度には、嶺南Eコースト計画のVPP実証として、**2施設に蓄電池型の急速充電器を設置(1基/施設)し、充電サービスを拡大予定**。



1. 地元企業の活用
2. 嶺南産水素の大阪・関西万博等での活用
3. 嶺南地域における地域交通の充実
4. EV充電器の設置
5. ビジネスマッチングの取組み

農・水・食分野におけるビジネスマッチングの取組み

➤ 各分野の地域ニーズに対して、スタートアップ企業等と共同し、地域に根付くビジネス創出に向けた取組みを展開

ヒアリング等を通じて確認した
地域ニーズ (課題テーマ)

課題テーマに知見を有する
スタートアップ企業等

具体的な取組み

● 水産養殖業の強化

ブランド魚の開発

地魚復活による水産事業の立ち上げ



リージョナル
フィッシュ
株式会社



強み：品種改良技術、スマート養殖技術

- ゲノム技術等を活用した**品種改良**研究
マサバ：高水温環境飼育
アカウニ：高密度環境飼育
- 県立大と連携した、**陸上と海面のハイブリッド型養殖事業の検討**

嶺南特産品の持続可能性

「小鯛のささ漬け」をサステナブルに



公立大学法人
福井県立大学  福井県立大学
Fukui Prefectural University

強み：魚の生態等、水産全般の知見

- 嶺南の特産品「**小鯛のささ漬け**」の原料であるキダイを、**安定供給するための完全養殖技術の開発**
- 効率的な養殖方法の検討**

● 農業生産基盤の強化

生産技術・収益性向上

サステナブルかつ稼げる農業へ



株式会社
TOWING



強み：超良質土壌環境の生成技術
(バイオ炭に微生物を付加し、
有機質肥料と混合)

- バイオ炭に活用できる地域資源** (地域の農水産業廃棄物) の**模索**
- 地域資源を活用**した良質な土壌環境が安定して提供できる**仕組みづくりの検討**

デジタル化・産地形成

ITの力で農業の見える化を実現



テラスマイル
株式会社



強み：データ一元化による分析、営農指導

- 農業経営クラウドサービス**を活用した栽培**データの取得**
(温度管理による青ネギの最適生育モデルの作成)
- 取得した**データ活用による、生産性向上の検討**

農・水・食分野におけるビジネスマッチングの取組み

➤ リージョナルフィッシュ社とのマサバ案件は、高水温耐性研究に関する成果をとりまとめ、福井県を含む4者で7/1に情報を発信するとともに、マサバの育成検証を高浜町の海で実施。

<主な実績>



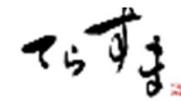
- ・マサバの高水温耐性研究成果についての情報発信を実施
- ・マサバのふくい水産振興センターでの研究開発、海での育成検証を実施



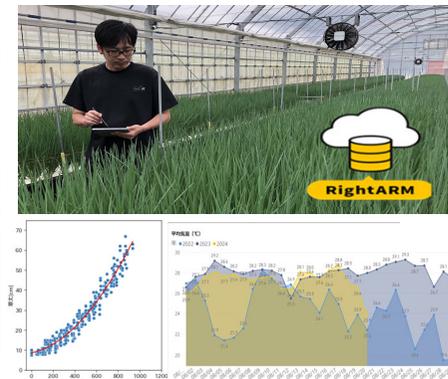
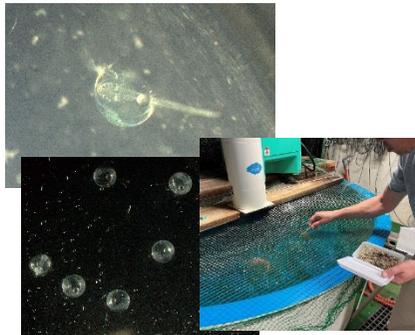
- ・水槽の温度調整や、給餌による親魚の栄養状態強化により、自然交配による産卵に成功
- ・通年での種苗生産を目指し、産卵時期の調整を行う検証を継続



- ・グリーン協議会との連携による、稲作等での効果確認実証を継続
- ・牛糞を原料とする高機能バイオ炭の開発研究を継続



- ・データ活用による、栽培管理の改善、青ネギの生産量および製品率の向上を確認
- ・データの拡充と生産者や品種毎の積算温度による生育モデルの作成を検討



Thank you.

